

イタリア自転車市況－2013

1. 生産

イタリア自転車産業界は2009年に実施された自転車購入奨励金制度により、一時は回復の兆しを見せたかに思われたが、その後、欧州債務危機による国内経済不況の影響を受け低迷が続いた。しかしながら、イタリア二輪車工業会(ANCMA)によると、2013年は第1/4半期は天候不良となり、いまだ不況の影響があるとされるものの、2013年自転車(完成車)の国内生産台数は前年比22%増の267万台と回復した。この増加の理由は、従来から同国で製造が盛んな子供車・幼児車の中でも、特に車輪径20インチ以下のものが増えたためとみられる。

車種別生産台数でも、2013年は子供車・幼児車が前年比27.8%増と大幅に増え1,000千台の大台を突破した。MTBは同比16%増で700千台を超え、更に前年大幅に落ち込んだシティ車・スポーツ車も同比26.2%増と盛り返したが、唯一、ロードバイクは前年比16.6%減となった。

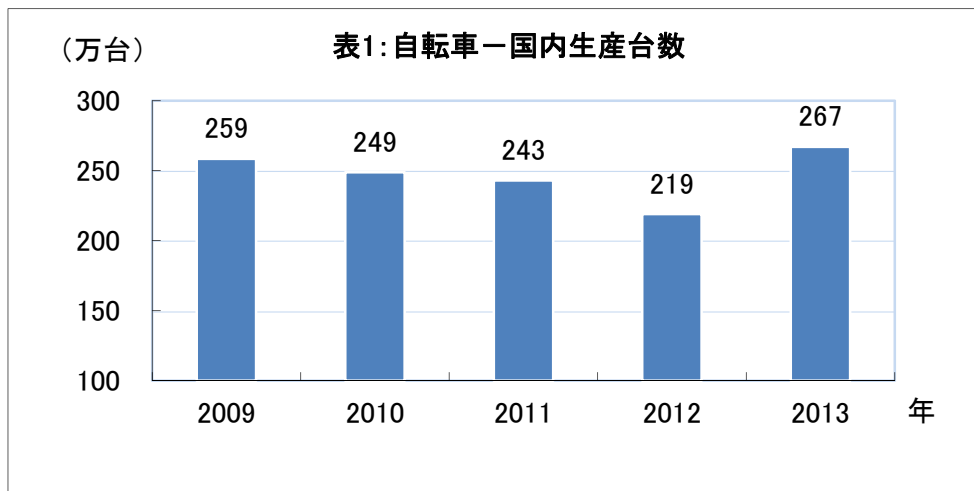


表2: 車種別生産台数

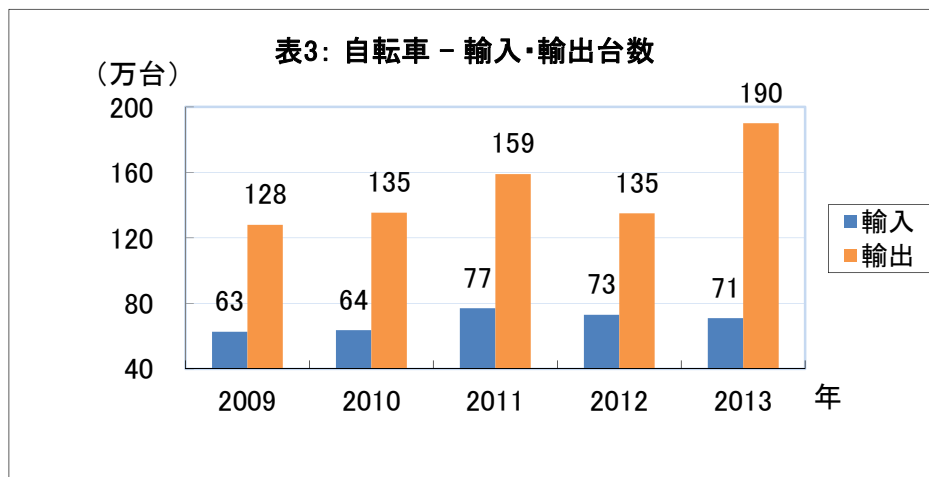
年	2009		2010		2011		2012		2013	
	(千台)	(%)	(千台)	(%)	(千台)	(%)	(千台)	(%)	(千台)	(%)
MTB	668	26	642	26	675	28	645	30	748	28
ロードバイク	115	4	102	4	72	3	96	4	80.1	3
シティ車、スポーツ車	897	35	825	33	850	35	550.2	25	694.5	26
子供車、幼児車	905	35	920	37	833	34	898.8	41	1148.6	43
年計	2585	100	2489	100	2430	100	2190	100	2671.2	100

2. 輸出入

2013年自転車の輸出台数については、前年比40.7%増の190万台と前年より増加した。前述の車輪径20インチ以下の子供車・幼児車の生産増加と軌を一にして、同車種の輸出が増加したとみられる。地域別輸出では、依然として輸出の9割以上はEU諸国向けであり、その他地域向けはごくわずかである。

2013年自転車の輸入台数については、前年比2.7%減の71万台とわずかに減少した。前年同様、EU諸国からの輸入が全体の6割程を占めるが、その他地域からでは台湾、チュニジア及びフィリピン等からの輸入が上位であるが、昨年上位のスリランカからの輸入は2012年の4万台余りから2013年は2千台未滿へと一気に減少した。

現在、EU委員会がアンチダンピング(AD)税48.5%を賦課する中国製自転車の迂回行為が認定された4か国に同様のAD措置が昨年より適用されている。その4か国にスリランカが含まれることが激減の要因とも考えられるが、一方で、同じく4か国に含まれるチュニジアからの輸入は2013年も4万台近くを維持している。このAD措置の5年間で両国からの輸入がどのように推移するのか注目される。

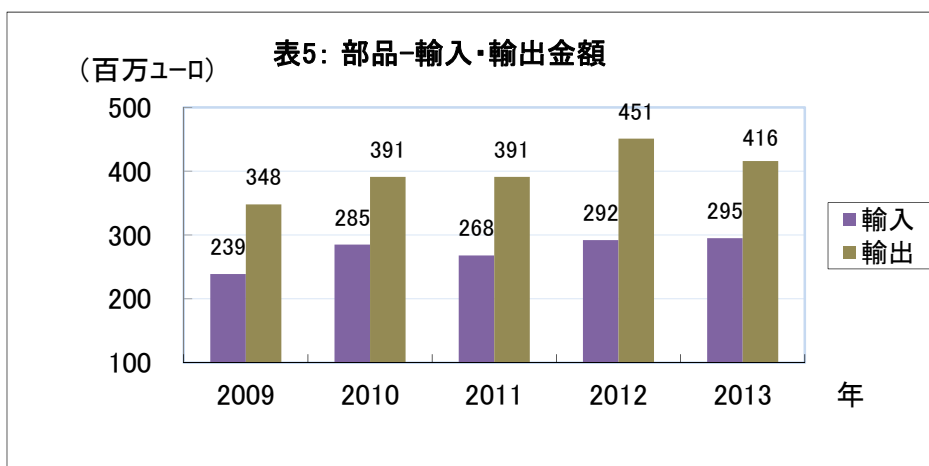
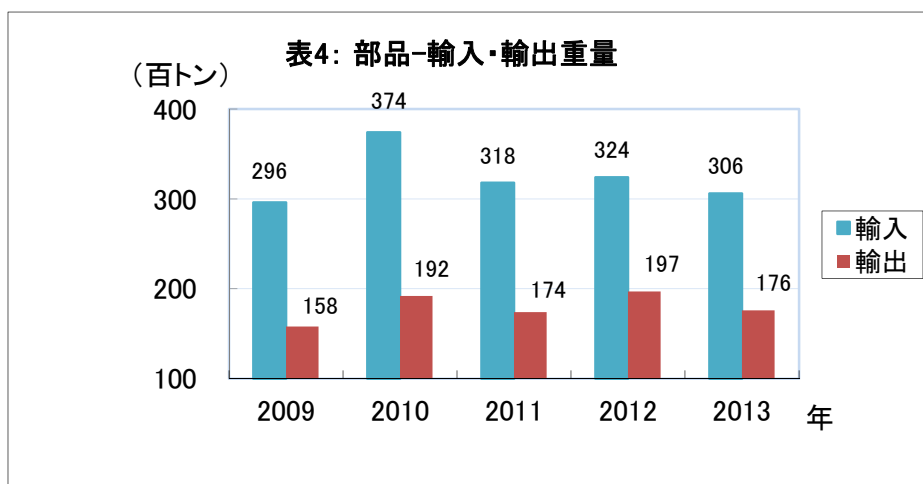


電動アシスト自転車(EPAC)を除く一般の自転車の輸出入で見ると、2013年輸出台数は前年比38.5%増、輸入台数は同比9.0%減となった。平均輸出単価は前年より5ユーロ(690円)安い103ユーロ(14,214円)、平均輸入単価は前年より20ユーロ(2,760円)高い208ユーロ(28,704円)であった。

EPACの輸出入については、2013年輸出台数は3千台未滿であるが前年比88.9%増となり、輸入台数は前年比12.2%増の4.8万台であった。EPACの平均輸出価格は前年より92ユーロ(12,696円)安い356ユーロ(49,128円)、平均輸入価格は前年より10ユーロ(1,380円)安い364ユーロ(50,232円)であり、EPAC輸出台数は増えたものの、それぞれの平均単価は下がっている。

自転車部品の輸出入については、2013年の重量ベースでは、輸入重量は同比5.6%減、輸出重量は前年比10.7%減となり、輸出入共に前年より減少した。なお、輸出重量の8割以上はEU諸国向けである。輸入重量では6割が中国からであり、次いでその他のアジア地域からが2割、EU諸国が1.5割となっている。金額ベースでは、輸入金額は前年比1%増とわずか

に増えたものの、輸出金額は同比 7.8%減と前年の大幅増から減少に転じた。



3. 販売

完成車の 2013 年国内販売台数(※ANCMA 推計)は、前年比 4.3%減の 154 万台となり過去 5 年減少が続いている。しかし、電動アシスト自転車(EPAC)の販売については、2013 年は前年比 11.8%増の 51,405 台となった。長引く不況の影響により同国自転車市場全体の自転車販売台数は年々減少傾向にあるが、EPAC に関しては年々販売台数を増やし、2013 年も高い伸び率を見せ、販売も 5 万の大台を超えるなど、同車種販売は今後も成長が期待されている。

車種別販売比率では、2013 年 EPAC の販売比率は前年より 1 ポイント増の 4%となり、その他の車種では、最多比率はシティ車・トレッキング車が前年同様 32%、次いで MTB が 1 ポイント増の 31%、子供車・幼児車は前年同様 18%、ロードバイクは 1 ポイント減の 6%、その他が 9%である。

業態別の販売比率で見ると、2013 年の販売台数は前年同様に自転車小売専門店が 40%、大型スポーツ店が 30%、量販店が 30%となっている。販売金額では、自転車小売専門店が前年より 2 ポイント減の 52%であるが依然として半数を占め、大型スポーツ店は前年同様の 28%、量販は 2 ポイント増の 20%であった。因みに自転車小売専門店の商品別比率では前年と同じく、自転車販売 47%、部品交換 23%、衣料販売 6%及びその他・修理補修等が 24%となって

いる。

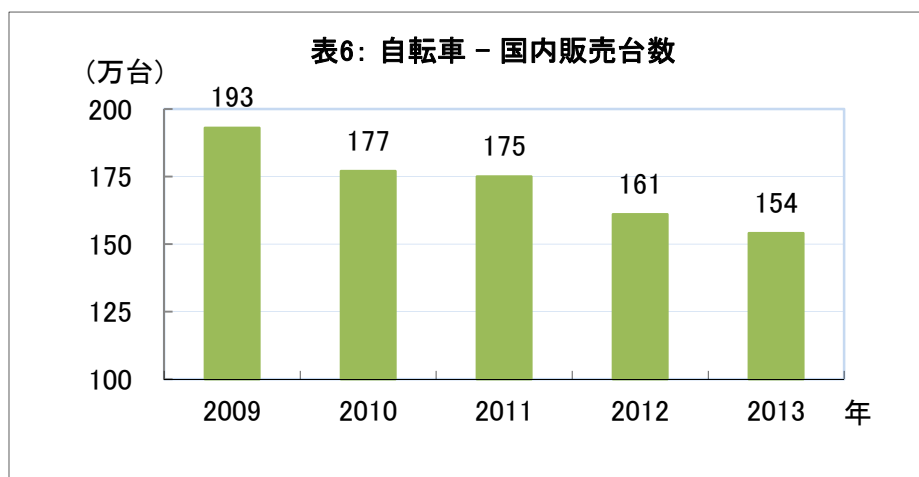


表 7: 電動アシスト自転車販売台数及び平均販売価格

年	2009	2010	2011	2012	2013
販売台数(台)	20,000	40,000	45,000	46,000	51,405

以 上

統計出所 : ANCMA